

今度の出版に当って

この「現代美術——僕の場合——」の原稿執筆には、余りにも気せわしない思いであった。

この前の「自画道」の時は、くも膜下出血の手術をうけ、今度は左眼の白内障の手術をうけるなど、益々衰えていく肉体の限界を思うと、——いまのうちに、大作の思いをものにしておきたい——というあせり気味にならざるを得なかった。そのため筆不足の個所もあると見受けられるので、又しても筆を加えることになった。

1982年の大阪現代美術センターによる個展は、「縫い」と「油彩」によるものであったその時、Aから「上前さんはもっと勉強してもらわんと、あれではあかんぜ、——とBが言っているぜ」という手紙が舞い込んできた。このBというのは、宮崎県のB画廊の画廊主で、そのBはすでに前記の個展を見て、絶賛して帰った後なのである。そして尚そのB画廊では、僕の個展を開くことが決まっていて、早くから多くの案内状も画廊から届いていたのであった。

早速僕は、Aに手紙の返書を送ると、「上前さんの絵は世界第一級のランクにあり、僕はその具体時代の絵の方が好きです。しかし僕は神ではないので間違っているかも知れません」と言う様な返書が又僕に届いたのであった。

この様な思いも募っていて、「下手と上手」(117頁)の原稿を書いたものだが、何と言っても僕は、吉原治良とタピエから受けた影響は大きい。それにあのエネルギーに富んだ人達の出入りの多い「具体」の中で、1955年の第一回展から72年の解散に至る間の具体展には欠くことなく、又モダンアート展に於いても1955年から70年迄の間は連続出品し、それに個展で新作も発表してきた。この時の僕は、大きなハンディキャップを背負っていた。そして尚、現在も健在で新しいことに眼を向け

て、画歴のためではなく制作は続けている。この書きものは僕の証とする理念の現われでもある。

僕の頭には、強い劣等感と、確固たる優越感とが、気圧の様に流動している。そして、これ迄の経験によって培われてきた脳みそからは、酵素が発酵して、いろんなイメージ(アイデアとも言うべきか)が次から次へと泡立っているのである。そして又、どんなコンピュータよりも以上に、万能的に訓練されてきたこの10本の指は、脳から神経をへたイメージを、選ばれた素材に刻みつけるのである。この刻印されたものは、最早ただの物質ではなく、その時の作家(僕)の、呼吸する息のこめられた永久的不滅の僕の像(墓標)なのである。

僕は新しい美術を手探っている者の一人であるが、「失敗」を覚悟(できるだけ計画をたてるのだが)で、思い切った「かたち・いろ」で試ることが多いが、この時の失敗作は駄作ではなく、新しいことに挑戦する「捨石」と言うべきで、惰性(マンネリズム)を飛び越すためのステップと考えたい。この様な厳しい葛藤の中で何点かの成功したのを見ると、作家としての生き甲斐を覚えるものである。

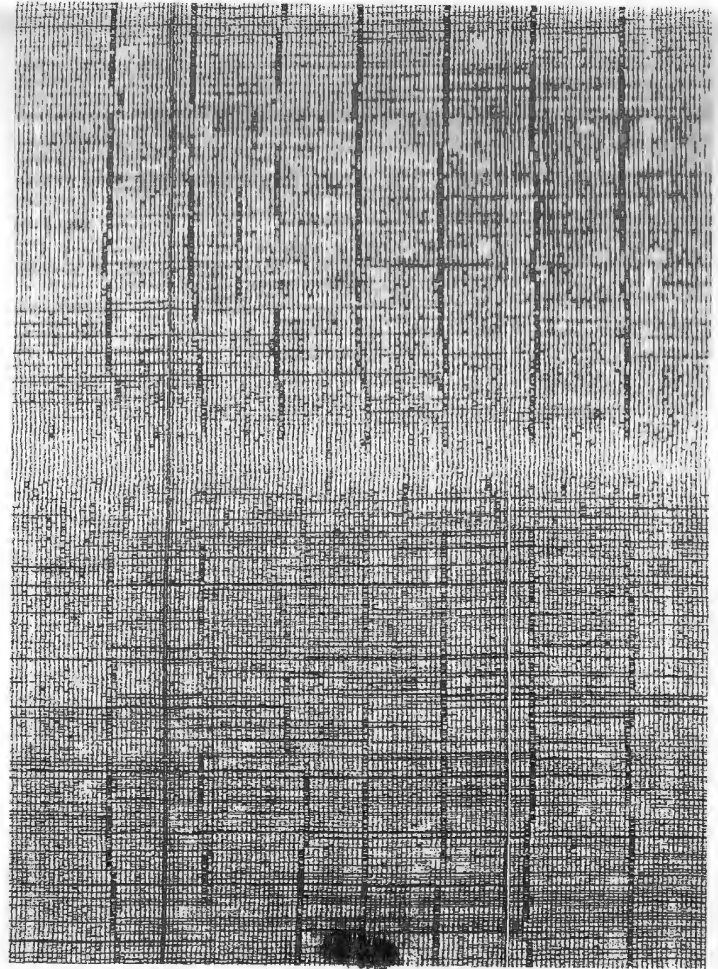
この手探りの半面、安全性を求めて作ることもある。それは出来の良かった作品のあとを追うこと、又は、黒っぽい作品(必ずしも安易とは言えないが)、そして又、古ぼけた様な作品を作ることもある。要は、ニセ物、又は人まねでなく、世間体に惑わされることなく自分のものを育成することである。

ある時、某美術館より、1950年代の作品を求められたが、その作品のいたんだところを、自分で直しているうちに、その作品を駄目にしたことがある。僕は、古美術品修復師をあえて軽視するものではない。尚この他に「『非具象』について」(115頁)も、僕自身のいき方として書いたものである。

最近の制作のおぼえがき

- | | | | | |
|---|----------|---------------|----------|------------|
| ① | 1986年11月 | 248cm × 166cm | (縫い) | 86・Ge展 |
| ② | 87年 1月 | 258cm × 182cm | (縫い) | 87・Ge展 |
| ③ | 88年 2月 | 261cm × 186cm | (縫い) | 88・Ge展(予定) |
| ④ | 87年 8月 | 200cm × 150cm | (縫い) | 未発表 |
| ⑤ | 87年 9月 | 25号 | (縫い) | 未発表 |
| ⑥ | 88年 1月 | 307cm × 195cm | (縫い)・未完成 | 未発表 |
| ⑦ | 87年11月 | 323cm × 241cm | (縫い)・未完成 | 未発表 |
| ⑧ | 88年 3月 | 158cm × 123cm | (縫い) | 未発表 |
| ⑨ | 88年 4月 | 68cm × 53cm | (縫い) | 未発表 |
| ⑩ | 88年 4月 | 181cm × 140cm | (縫い) | 未発表 |
| ⑪ | 88年 5月 | 143cm × 40cm | (縫い) | 未発表 |

- | | | | | |
|----|--------|------------------------|------------|-------------------------------------|
| 番外 | 86年 | 167cm × 106cm | (縫い) | 未発表 |
| " | 86年 | 24.5cm × 24cm × 22.5cm | (縫い・立体) | 87年 東京・アートスペース21・小品展
87年 京都・カワシマ |
| " | 87年 | 43cm × 43cm | (縫い) | 87年 芦展
88年 Ge小品展・ぶらんしゅ |
| " | 87年10月 | 15cm × 15cm × 15cm | (縫い・立体) | 87年 京都・ココ・小品展 |
| " | 86年 | 40cm × 43cm × 43cm | (油彩・木・立体) | 未発表 |
| " | 87年 8月 | 142cm × 165cm × 25cm | (油彩・木・半立体) | 未発表 |



縫いの作品 261×186センチ 1988. 4